



ニッポン
ドクター和の
臨終図巻

この人が男性週刊誌で連載していた「無責任相談 俺に聞いてどうすんの？」という悩み相談が好きでした。どこまでも後ろ向きな回答が、かえって気持ちを手軽してくれました。

『モナリザの微笑』『君だけに愛を』などで人気を博したG Sグループ、僕より下の世代なら80年代の大ヒット曲『色つきの女でいてくれよ』のほうが印象的でしょうか。ザ・タイガースのメンバーで、俳優やタレントとしても活躍された岸部四郎さんが8月28日に千葉県内の病院で亡くなっていました。享年71。死因は、拡張型心筋症による急性心不全との発表です。

175 タレント 岸部四郎



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が「平成臨終図巻」として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

姉と兄に看取られた最期

ます。進行すると呼吸困難が著しくなり、死に至る病です。拡張型心筋症という病名は市民には大変わかりづらい病気かもしれませんが。心臓が大きくなる病態には多くの原因があり、すがどれにも当てはまらなかったとき、暫定的にこの病名を使うことがあります。岸部さんの場合、脳梗塞やパーキンソン病の延長線上だったのでしょう。病気や借金問題などによって、晩年は孤独なイメージがついてまわりましたが、最期はお姉さんと、お兄さんである俳優の岸部一徳さんが看取られたそうです。

少子化が進む昨今、子どもよりも兄弟姉妹に看取られる旅立つ人が増えてきました。兄弟なんて、それぞれ家庭を持つたら他人同然だと考える人もいるでしょう。親の遺産をめぐるって、いがみ合ってしまうケースもあります。

しかし、たとえ結婚して子どもがいても、孤独な老後を迎える人は少なくありません。兄弟姉妹とは老後こそ仲良くしておくことをお勧めします。同じご飯と味噌汁を食べて育ったはずですから。

ザ・タイガースの岸部兄弟、シローとサリーの飄々とした存在感が忘れられません。2013年12月、42年ぶりのタイガース再結成コンサートツアーの最終、東京ドーム公演に四郎さんは車椅子で参加。一徳さんは反対したようですが、ジュリーと沢田研二さんが彼の参加を強く望んだとのこと。四郎さんはビートルズの『イエスタデイ』を熱唱し、一徳さんは「兄弟でステージに立ってるなんて奇跡です」と目を潤ませたそうです。これが、四郎さんの最後の公の場となりました。

2003年に脳梗塞を患い、その後パーキンソン病を発症。入退院を繰り返していました。2007年には再婚した14歳下